



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

2010年3月8日発行

沖縄県中頭郡西原町字翁長777

☎(098)946-1231 ㊟(098)946-1241

編集・発行

沖縄キリスト教学院企画推進課

URL <http://www.ocjc.ac.jp>

学

報

第56号



西原町教育委員会との地域連携事業協定調印式

記事内容



仲里朝章先生に倣う	2	西原町への理科教育支援始まる	11
沖縄キリスト教平和研究所が開設	3	同窓会情報	12
保 育 科	4	卒業生紹介	13
英語コミュニケーション学科 & 英語科	6	退職教員メッセージ	14
行事あれこれ	8	2009年度 人事・寄付感謝報告	15
キ リ 学 祭	9	2010年度 前期公開講座募集要項・	
宗 教 部	10	2008年度 決算報告	16



仲里朝章先生に倣う

学長 **Randolph H. Thrasher**

本学の創設者仲里朝章氏が学長であられたとき、私は初めてこの大学で教鞭をとる事ができ、大変に光栄に思います。1959年、私は大学を卒業したばかりでしたが、英語を教えるため3年の契約で沖縄にやってきました。その頃、私は日本語が話せず、仲里先生も英語が達者ではありませんでしたので、先生の信仰やこの学校への思い・ビジョンを直接お聞きする事はできませんでした。しかし、日本人で、米国にあるディサイプル教会の宣教師であった前田伊都子先生が、しばしば私の隣に座し、仲里先生の日曜日のメッセージを通訳してくださいました。また、卒業式の告辞や他の行事の際のご挨拶は、川平朝清先生が英語に通訳してくださいました。

仲里先生がこの学校を設立した理由を知る機会はいくつあるのですが、先生の生き方、すなわち、学生や教職員とどのように接してこられたかを見さえすれば、先生ご自身と先生のこの学校へのビジョンを知ることができます。先生は学生に他者への気使いを教えたかったです。そして、先生ご自身いつでも他者へ奉仕するという備えをお持ちでした。私の個人的な経験になりますが、一つ例を挙げてみましょう。1960年の夏、1ヶ月間日本語の勉強のため東京へ行きました。仲里先生は、御用で既に東京へいらしていました。同じ東京といってもかなり離れたところでした。ある日、先生は健康があまり優れていられなかったのですが、わざわざ私を訪ねてくださったのです。その日はとても暑い日でした。ドアのベルが鳴り、仲里先生がドアの前に立っているのを見て、とても驚

きました。彼は、この若い外国人教師が心配で、列車と路面電車を乗り継ぎ2時間もかけて私の様子を見にいらしてくださったのです。

彼は、この学校の学生が平和を創り出す人・ピースメーカーになることを望みました。そして、平和の架け橋はどのようにして創り出せるのかを、先生ご自身が他者とのかわり代で示してくださいました。牧師と宣教師のミーティングでは、しばしば議論が激しくなりましたが、先生の言葉はいつも議場の怒りを和らげ、信頼を築きあげました。

あれから50年経ち、今、私は学長です。私は、彼と同じ身の丈ではありませんが、彼の足跡をたどるよう努めています。仲里先生のこの学校に対する建学の精神は変わっていません。その精神で持って、私たちは学生に、奉仕すること、平和を創り出す人・ピースメーカーになることを教え続けなければなりません。

この学校の実績を称えます。そのいくつかをこの学報でお読みいただくことが出来ます。しかしながら、私たちが多くの問題に直面していることを認めないわけにはいけません。しかし、単に私たちだけでこれらの問題に直面しているわけではありません。仲里先生がかつて私におっしゃったことがあります。「神様のお恵みによってこの学校は創られた」ということです。仲里先生が私たちに示してくださいましたように、神様のお恵みによって私たちは教育目標を堅持することが出来ると信じています。

沖縄キリスト教平和研究所が開設

キリスト教に根ざした「平和」の研究・発信・実践を目的として、本学に沖縄キリスト教平和研究所が開設されました。開所式（礼拝）が10月30日に関係者が多数参加する中、肅然と行われました。その後の懇親会では、上間明西原町町長のご挨拶をはじめ、研究所並びに研究者の紹介などがありました。



「休講・補講サイト」ができました。

学部より学生の皆さんへ お知らせ！

自宅のパソコンからはもちろん外出先で携帯電話からもリアルタイムで休講・補講・緊急情報などが確認できます。

（2009年10月より稼動中）

アドレスは、<http://www.090.jp/ocjc/>
QRコードからもアドレスを取得できます。



※「休講・補講携帯サイト」に関するお問い合わせは教務課まで

「50周年記念誌が発刊」

2007年4月9日に本学は創立50周年を迎えました。その記念に50年の記録と関連して行われた諸行事の様様を収めた記念誌をこのほど作成しました。





保 育 科

ワイワイプラザinキリ短開催される。

親子ふれあい地域支援事業として昨年度に引き続き開催されました。10月から1月までの各月1回、保育科の全学生を4つのグループに分けて、それぞれの回を企画・運営しました。

第1回 10月31日 (土) 14:00~17:00

行こうよ！ 丘の上のハロウィンパーティーみんなでわいわい trick or treat

クッキーやお面づくり、劇もありました。



第2回 11月28日 (土) 14:00~17:00

パクパクトントンワイワイ

簡単な工作やお菓子作り、短大のお兄さん・お姉さんたちと一緒に遊んだよ。

第3回 12月19日 (土) 14:00~17:00

ハッピークリスマス～すてきなおくりもの～

絵本の主人公になって、サンタの国を冒険しました。ツリーも作ったよ。

第4回 1月16日 (土) 14:00~17:00

力を合わせてゴールヘゴー!! わくわくファミリー探検隊

お化け屋敷がキリ短に出現。ぜんざいも甘くて温かくておいしかったね。



◎参加者の感想

- 子どもも大人も夢中になって遊べるプログラムがたくさんあって良かった。次回もぜひ参加したいです。学生のみならずありがとうございます。
- 初めてのハロウィンイベント参加、とてもアットホームでたのしかったです。毎年やってもらえるとうれしいです。
- 子どもたちがよるこんでいました。こういう機会をたびたび催して下さい。今の子どもたちは、自由に遊ぶ場所もチャンスも少ないです。
- 親子で楽しく一日が過ごせたのですごく良かったです。これからも親子が一緒に楽しめる企画をいっぱいしてください。
- スタッフと一緒に遊んでくれてとても楽しかった。ハロウィン以来子どもが「キリ短に行こう!」と毎日言っていました。
- 学生さんも、がんばっている姿を見る事で、親としても心にくるものがありました。
- 体育館では、参加者の靴を一つ一つ綺麗に並べてくれた学生さんには感心しました。

学生達は達成感を感じながらも、「準備不足」などを反省していました。

この催しは、2010年度も実施します。



♪ 音楽Ⅲ受講生が熱演 ♪

2月9日に「ミニコンサート」が行われました。今回は「20人の奏でる美しい調べ～癒しのひとときをあなたに～」と題し、前半はピアノのソロ演奏、後半はアンサンブルとピアノ連弾の2部構成でした。会場の仲里朝章記念チャペルを一杯にした聴衆は、時を忘れ素敵な音色に聞き入っていました。

選曲は、普段耳にすることが多い曲を中心としています。ピアノをはじめトランペット、三線、ハンドベルの演奏と歌唱。それらの生の響きに身を浸せるのは、やはり演奏会ならではの醍醐味といえるでしょう。学生らの演奏もさることながら秀逸だったのは、保育科教授の大山先生と講師を務める津田、神谷、糸洲の3名の先生方による県内初かもしれない1台8手連弾での「ギャロップ・マーチ」(Lavignac 作)でした。

また、コンサートを終えた後の先生方と保育科2年の学生、総勢20名の顔には、聴衆を魅了した満足感から心地よい笑みが浮かんでいました。

今回の受講生にはいませんでしたが、例年5、6名の学生は入学後に初めてピアノに触れる人もいてその成長ぶりにも驚かされます。来年の音楽Ⅲ受講生による「ミニコンサート」開催の折には、楽しい一時を共にしませんか。

沖縄キリスト教平和研究所連続講座

「戦後の沖縄における教会の歩みと回顧―苦難の中での平和への願い」(全13回)

2010年2月から開催いたします。

	開催予定日	講師名	講師プロフィール (2010年2月現在)
1	2月23日(火)	平 良 修	日本基督教団沖縄教区牧師、沖縄人権協会理事、一坪反戦地主会共同代表、元沖縄キリスト教短期大学学長
2	3月23日(火)	饒平名 長 秀	沖縄バプテスト連盟神愛教会牧師、沖縄宣教研究所所長 沖縄キリスト教協議会議長
3	4月20日(火)	山 里 勝 一	日本基督教団沖縄教区牧師、元日本基督教団沖縄教区総会議長
4	5月18日(火)	真榮平 房 敬	日本基督教団首里教会会員
5	6月22日(火)	金 城 重 明	日本基督教団沖縄教区牧師、元沖縄キリスト教短期大学学長 元日本基督教団沖縄教区総会議長
6	7月20日(火)	名 嘉 隆 一	日本基督教団コザ教会牧師、児童養護施設愛隣園理事長 元日本キリスト教団沖縄教区総会議長
7	10月19日(火)	仲 村 實 明	日本聖公会沖縄教区前主教
8	11月16日(火)	仲尾次 清 彦	日本基督教団隠退牧師
9	12月14日(火)	城 間 祥 介	沖縄バプテスト連盟宮古教会名誉牧師 社会福祉法人鳳福祉会理事長 (小羊保育園)
10	2011年 1月18日(火)	名 護 良 健	沖縄バプテスト連盟中城城東教会牧師
11	2月22日(火)	中 原 俊 明	日本基督教団志真志伝道所会員、琉球大学名誉教授
12	3月22日(火)	大 城 実	元沖縄キリスト教短期大学学長、元沖縄キリスト教学院理事長
13	4月19日(火)	神 山 繁 實	沖縄キリスト教学院理事長、前沖縄キリスト教学院大学・短期大学学長

●期 間：2010年2月～2011年4月 (13回) 月に一度開催 (但し、8月～9月は夏期休暇の為お休みとします)

●場 所：沖縄キリスト教学院大学・短期大学 シャローム会館大教室

●開講時間：19:00～20:30 ●受 講 料：300円 (1回に付)

●申込み・問合せ先 ＊電話、ファックス、メールのいずれかで申込みください。(定員130名)

沖縄キリスト教学院 沖縄キリスト教平和研究所

住所：〒903-0207 西原町字翁長777番地

TEL：098-946-1279 FAX：098-946-1241、098-946-1237

E-Mail：ocpi@ocjc.ac.jp



英語コミュニケーション学科 & 英語科

「第29回校内英語弁論大会開催」

2009年10月29日(木) 3人が出場しました。結果は次のとおりです。(敬称略)

- 【1位】 (ライル・アリソン特別指定奨学金30,000円授与)
瑞慶覧 愛 (英語コミュニケーション学科2年)
"Father"
- 【2位】 (賞金20,000円授与)
佐野 祥子 (英語コミュニケーション学科2年)
"No Man is an Island"
- 【3位】 (賞金10,000円授与)
神谷 香織 (英語コミュニケーション学科4年)
"Not to Ruin Your Life"



「第3回高校生英語ライティングコンテスト“Power of the Pen”開催」

英語コミュニケーション学科主催。2009年9月26日開催。結果は次のとおりです。(敬称略)

- 【Grand Prize】 中津川みづき (沖縄尚学高校3年) 【Second Prize】 田邊 春菜 (球陽高校2年)
- 【First Prize】 上 里 彰 (沖縄尚学高校3年)

「第20回高校生英語弁論大会開催」

2009年12月12日第一次審査を通過した12人が出場しました。結果は次のとおりです。(敬称略)

- 【1位】 島袋 乃一 (沖縄尚学高校1年) 【Best impromptu賞】 糸数 桃子 (那覇国際高校2年)
- 【2位】 糸数 桃子 (那覇国際高校2年) 【学長賞】 谷口 佳鈴 (首里高校2年)
- 【3位】 上間 茉莉 (開邦高校2年)

科学研究費補助金・大平正芳記念財団学術研究助成費 獲得

英語コミュニケーション学科の本浜秀彦准教授が平成21(2009)年度科学研究費補助金(基盤研究C)、及び大平正芳記念財団第23回環太平洋学術研究助成費に採択されました。

【科学研究費補助金課題名】 文学・視覚メディアにおける「沖縄人」の〈顔〉の表象についての研究

【大平正芳記念財団学術研究助成費研究課題名】 沖縄と太平洋の島々を結ぶ文学研究ネットワークの構築

5大学連携の金融講義

本学と沖縄大学、沖縄国際大学、名桜大学、琉球大学の5大学が連携した講義「金融理論と実務の基礎」が10月10日より開催されました(全9回)。5大学で1つの講義をもつというのは県内初で、金融についての知識を大学の教員からだけではなく、銀行や証券会社の職員からも学ぶというものです。本学では人文学部の高崎正名教授が講義を担当しました。

下地さん、伊礼君が全国表彰

平成21(2009)年度日本学生支援機構の優秀学生顕彰事業で英語コミュニケーション学科の下地麻衣子さん(4年)と伊礼浩和君(4年)が表彰されました。

下地さんは、文化・芸術部門の大賞。クラシックバレエを長く続けており、フランスで行われた第29回カルポー賞コンクール・シニア部門で第2位、グラス国際クラシックバレエコンクール・プロフェッショナルクラスで第3位といった活躍が評価されました。伊礼君も同部門の奨励賞でした。イギリスであったEU Karate and Kobudo Tournamentの型/組手/古武道(棒)/サイのそれぞれの部で優勝しました。

12月12日東京のアルカディア市ヶ谷で行われた表彰式では、受賞者を代表して下地さんが挨拶をしました。

学P 沖縄リーグで売り上げ第一位

沖縄ファミリーマート主催の「学P沖縄リーグ2009」で3年の高崎ゼミの学生たち(代表 仲里朝博君)が、総販売数と総販売金額で参加6大学中一位となり、トップ販売賞に輝きました。これは、学生らが企画・開発した弁当・デザート売り上げを、CMの作成・収録や店頭での販促などを含めたトータルな実践をしながら競うものでした。今回学生らが開発したのは「白ごまっ茶」と名づけた白ゴマと抹茶をつかった豆乳プリンでした。出来の良さは売り上げトップが示す通りのものです。昨年も高崎ゼミの先輩らが好成績を収めており、学生らのセンスの良さに感心しました。



大 学 院



大 学 院 講 演 会

2010年1月23日、立教大学異文化コミュニケーション学部の久米昭元特任教授をお招きして「沖縄キリスト教学院大学大学院2009年度講演会」がシャローム会館1-1教室にて開催されました。

【演題】 小集団にみるコミュニケーション・スタイルの国際比較

—意義ある異文化交流の実践に向けて—

大 学 院 の 動 向

沖縄キリスト教学院大学大学院異文化コミュニケーション学研究科修士課程では、初の修士号取得者を出すことになりました。

【氏 名】 鎌田 史(かまだ あきら)

【学 位】 修士(異文化コミュニケーション学)

【修士論文名】 日本の英文学教育における現状と課題

—グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいた学生の「語り」の分析—

(英語表記) The Present Situation and the Problem of English Literary Education in Japan
--Analysis of Students' 'Narratives' Based on the Method of Grounded Theory--





行事あれこれ

入学式

2009年4月1日に行われました。英語科113人、保育科105人、英語コミュニケーション学科117人が大学生となりました。大学院へは6人が入学しました。

スポーツデイ

4月18日にありました。バレーボール、ドッジボール、大縄跳びを楽しみました。



新入生オリエンテーションキャンプ

5月20日から22日の2泊3日、渡嘉敷島にある国立沖縄青少年交流の家で行われました。

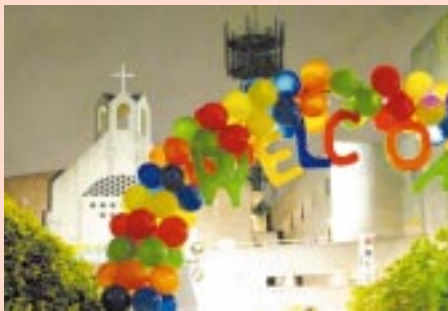


秋の進路セミナー

2009年10月27日秋の進路セミナーが開催されました。これは、進路について考えてもらおうと学院大学と短期大学の全1年生を対象に実施しているものです。今回のプログラムは右記の通りでした。

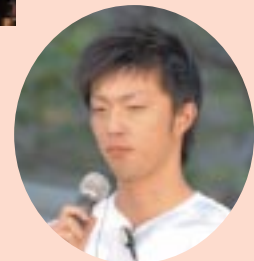
時 間	プログラム
10:00～	開会式
10:20～11:50	「自己分析・自己発見のための職務適正テスト」
12:00～12:50	昼食
13:00～14:30	基調講演 講師：比嘉あみ子 氏 有限会社やんばるライフ専務取締役 テーマ「人育て・自分育ち」
15:00～16:30	「OB・OGパネルディスカッション」 ・英語科・保育科・英語コミュニケーション学科の 各科に分かれて卒業生の話を聞く。
16:30～	学生、教員、OB・OGを囲んでのフリートーク

キリ学祭



「つながりあえたキリ学祭」

前学生会長 瀬 知行 (保育科2年次)



本年度も無事に第45回キリ学祭が11月14・15日に行えたことを神様に感謝します。今回の学祭テーマは「Liiiiink～symphony of heart～」でした。「つながり」を大切に、響きあう学祭にしたいという願いを持った学生会・ボランティアリーダーが、約150名の実行委員と共に7月から準備を始めました。今年はバンド、ダンス、エイサー、サークル展示が連携し、また「メイク・ア・ウィッシュ」への募金活動を通してご来場の皆様が「つながり」について考える機会となる学祭にすることができました。また去年の学祭フィナーレは平田大一さんを迎えての「肝高の詩」でしたが、今年のフィナーレは「キリ学ミュージックフェス」と題して歌手の古謝美佐子さん、砂川恵理歌さん、Solunaさんのステージを行い、大トりの本学生50名と地域の中高生20名と古謝美佐子さんによる合唱を通して、地域や世代を超えてつながりあうこと、そして1人ひとりの声が響き合う素晴らしさをご来場の皆様と感じることができました。雨風があり肌寒い天候ではありましたが、それを感じさせない温かい感動が会場を包み込んでいました。

おかげさまでキリ学祭二日間とも大成功で終えることができました。支えていただいた皆様に、心より感謝いたします。



宗 教 部

サマー聖書キャンプ

2009年8月26日から28日までの2泊3日で行われました。本学を出発し嘉手納、伊江島、名護市辺野古そして東村高江等ニュースに何度も登場する地を実際に訪ね、沖縄の現在を目にするとともに過去に思いをはせ、平和の大切さを学ぼうという企画です。

今回は、総勢24人。本学院の大学・短大・大学院の学生をとりまぜて16人と教職員など学校関係者が5人、長崎ウェスレヤン大学の学生も3人参加していました。

また、報告は10月19日の月曜礼拝の中でスクリーンを使い撮影した写真を織り交ぜながら行われました。



主なプログラム

8月26日(水)	8月27日(木)	8月28日(金)
フィールドワーク 嘉数高台、沖縄国際大学、ハンビー飛行場跡地(ハンビータウン)、北谷町砂辺、道の駅かでな	- ヌチドゥタカラの家の見学と講話 - 名護市辺野古にて反対座り込みをされてる方々の聞き取りと海上からの視察	東村高江にて新ヘリパッド建設予定地の反対座り込みテント村を訪ねる。

沖縄キリスト教平和研究所

プロテスタント宣教163年記念シンポジウム

「ベッテルハイムの琉球伝道」と「沖縄」・「日本」の宣教を考える

2009年6月27日に、シャローム会館にて開催しました。沖縄宣教研究所、沖縄キリスト教協議会と共催。

講演会「自衛隊イラク派兵差止訴訟」「違憲判決」を聞く

2009年9月12日、シャローム会館を会場に自衛隊イラク派兵差止訴訟原告代表の池住義憲氏を講師に迎え講演会が行われました。沖縄キリスト者憲法9条の会、沖縄キリスト教協議会と共催でした。

2008年4月17日、名古屋高裁で、「イラクで行われている航空自衛隊の空輸活動は、イラク特措法及び憲法9条に違反する活動を含んでいる」との画期的な判決が下されました。又、平和的生存権は、基底的権利として憲法上の法的な権利として認められました。平和憲法が施行されて以来、確定した「憲法9条違反」判決としては初めての歴史的な判決です。この判決を全く無視した政府の行動が続いています。今、私たちは、危機感をもってこの判決の内容をよく学び、平和憲法を生かす働きへとつなげたいと願います。
(講演会の案内文より)

※上記シンポジウムと講演会の記録DVDを貸し出します。沖縄キリスト教平和研究所までご連絡下さい。

TEL: 098-946-1279 E-mail: ocpi@ocjc.ac.jp

西原町への理科教育支援始まる

2009年3月16日、西原町教育委員会と「地域連携事業に関する協定」が締結されました。本年度は、手始めとして西原町立の4小学校を対象に先生方への理科の実験方法の指導や授業の現場でのサポートをしています。



地球市民月間～いのちをつなぐアースハーモニー 2009

飢餓、貧困、紛争、災害などに直面している人々の現状を知り、地球に住むひとりの人間として共に考え、行動していくため、5月1日(金)～6月14日(日)の期間中、「地球市民月間～いのちをつなぐアースハーモニー 2009」と題し、前年度に引き続いて「平和文化」をテーマとする事業を学外団体等と連携して開催しました。(国際平和文化交流センター)

★地球市民パネル展 ～HAPPY SMILE in ASIA～

(共催：ONE LOVE)

5月11日(月)～6月13日(土)

本学の海外研修で訪れたフィリピン、ネパールで撮影した写真を学内に展示しました。貧困で苦しむ人々は世界の人口の80%を占めると言われていますが、便利で豊かな生活を送る私たちとは遠く無関係な現実なのでしょうか。途上国の暮らしやそこに暮らす人々の笑顔と向き合うことで、沖縄に住む私たちの生活と途上国とのつながりを問い直すパネル展となりました。



★講演会「やんばるからのメッセージ ～VOICE OF TAKAE～」

6月11日(木)

東村高江で米軍ヘリパッド建設に反対し、24時間座り込みを続けている住民を招いて、やんばるの現状からつながる地球全体の自然、軍事と平和について考えました。高江在住の比嘉真人さんが撮り続けているDVD上映と併せて、開発や基地建設と引替えに犠牲を強いられている沖縄の自然と地元の人々の暮らしについてより深く知ることができました。ある学生は「高江に米軍ヘリパッドが存在するということは、沖縄の島に育ち生きる私たちだけではなく、全てのいのちに関わる。大学に集まる若者たちで力を合わせて沖縄といのちを守りたいです。」という感想を残してくれました。



★映画「女工哀歌」上映会&トークショー

(NGO・フェアトレード取扱団体等6団体合同イベント、共催：桜坂劇場)

6月13日(土)・14日(日)

目まぐるしく移り変わるファッショントレンド。おしゃれなデザインを安い価格で提供する企業の大量生産を支えている、生産者たちの過酷な労働条件。その一例として、世界の衣料品の大半を生産している中国の工場に密着したドキュメンタリー映画「女工哀歌」を上映しました。上映前後には、映画の理解を深めるためのトークショーを行い、沖縄でフェアトレード商品を扱っている団体の方々のお話を伺いました。2日間を通して約500名の来場者があり、現代の量産量販の流通体系の背景にある生産者と、消費者である私たちとのつながりについて共に考えることができました。





同窓会情報

シャローム会館に同窓会・後援会事務室設置

同窓会と後援会共同の事務室が2009年4月、シャローム会館2階に設置されました。特に会員が1万2千名に達する同窓会においては、母校を支援する団体としてますます活躍が期待されるなか、活動の拠点設置が待ち望まれていました。会発足（1962年1月21日設立）から47年の歳月を経てようやく実現した活動拠点の確保です。同窓生相互の交流の場として大いに活用され、活動の活性化に繋がっていきたくと願っています。

事務室は同窓会と後援会が協力して運営し、嘱託職員1名を配置しています。これまで学院の事務部門で取り扱われていた同窓会事務（総務課所管）と後援会事務（財務課所管）は、同窓会・後援会事務室に移管され、新校舎シャローム会館での活動を開始しました。

沖縄キリスト教学院大学・短期大学支援 基金造成チャリティーイベント開催

「人づくりの根っこを求めて—講演・踊り・太鼓—」（2009年12月5日 会場：本学）

今回のイベントは、同窓会活性化のために会員の交流・親睦を図り、学院の発展にいささかでも寄与できたらとの願いと、地域社会との連携という視点に立って開催。講師に、沖縄放送界の先駆者で東京沖縄県人会会長の川平朝清氏と演出・脚本家の南島詩人・平田大一氏を招いた。講師自身の経験を踏まえそれぞれの分野から“人づくりの根っこ”を語り、400人の来場者に示唆と感動を与えた。また、平田氏と共演し「肝高の踊り」を披露した同窓生・在学生と西原町棚原地区の青少年で構成される^{みるくだいこ}弥勒太鼓の力強い演舞は会場を大いに盛り上げた。

※イベント収益金は881,754円で、同窓会費118,246円と合わせ100万円を学院へ寄付いたします。



『私が伝えたいこと「史」と「志」と「仕」の三字にちなんで』

川平 朝清 氏

歴史観に基づくアイデンティティーの確立と、与えられた才能・技能・経験を用い志しをもって仕える“人（自分）づくり”について本学創立の背景を紐解きながら語った。



『人づくりと地域力』
～びとうるびき・むーるびき（一人が変われば、皆が変わる）～

平田 大一 氏

人づくりは“感動体験の種を蒔く”こと。蒔けば可能性はゼロではない。一人が蒔けば根っこは増えて広がる。地域の力には大事な思いがあって、私はそれを形にし繋いでいきたい。



同窓会役員改選、譜久原朝儀会長再任へ

2009年度同窓会定期総会が7月17日（金）沖縄キリスト教学院において開催された。

任期満了に伴う役員の改選があり、譜久原朝儀会長が再任された。任期は2009年4月1日から2011年3月31日まで。

卒業生紹介

大村 沙季子 (おおむら さきこ) 保育科49期



夢に向かって

子どもに携わる仕事に就きたい、そんな夢を持ち大学選びは迷わずこの沖縄キリスト教短期大学保育科を選びました。在学中は、熱心な先生方の指導の下、同じ夢を持つ仲間と励ましあいながら、有意義な学生生活を過ごしました。そして1年次の施設実習は、私の夢に大きく影響を与えました。発達に遅れや障害のある子どもたちのための母子通園施設。一人ひとりに応じた丁寧な保育・支援に感銘を受け、いずれはこのような職に就きたいと思うようになりました。

卒業後は、保育者としてのスキルアップを図るため、幼稚園教諭として働き、また地域では“子どもの居場所作り”として文化活動を進め、あらゆる面で子どもと携わる活動に取り組んできました。そしてチャンスは突然舞い込んできました。母子通園事業所 保育士募集のお知らせ。正直始めは自信がありませんでしたが、数少ない職種であり、学生時代からの夢であったことが私の背中を押しました。そして念願の職に就くことが出来、現在に至っています。

職場では、個性豊かに生きる子どもたちと、愛情たっぷりに我が子を思い接する保護者の姿を直に見て、保育士としての意義・使命感を感じる毎日です。先輩の先生方には、個々への対応や保育内容を何度も試行錯誤するなど、『向き合うこと』=『その子を知ること』=『その子にあった対応をすること』、という在学中に学んだ保育の基本的な考えを実践して教えていただき、私もその一人として誇りを持って仕事をしています。

沖縄キリスト教短期大学で学んだ知識、サークルや学生会、地域での活動、そしてそこで出会った先生方や仲間、携わった全ての方のおかげで今の私があると思っています。そのことに感謝することを忘れず、これからも私らしく私にしか出来ない生き方ができるよう日々努力していきたいと思っています。

※ ※ ※ 略 歴 ※ ※ ※

2005.6	“子どもの居場所作り”の為、浦添市にて子ども演劇団体「浦添ゆいゆいキッズシアター」の立ち上げメンバーとして活動。市を中心に文化活動に取り組む。
2007.3	沖縄キリスト教短期大学卒業。
2007.4~2009.3	浦添・那覇市にて幼稚園の臨時教諭として勤務。
2008.12	「浦添ゆいゆいキッズシアター」代表となる。
2009.4~	浦添市社会福祉協議会 児童デイサービス事業所「たんぽぽ園」保育士として勤めている。

豊川 明佳 (とよかわ さやか) 英語科40期

It is never too late to become what you might have been. なりたかった自分になるのに遅すぎるということはない。

2000年の春。1年間の予定でロンドンに語学留学をすることにしました。イギリスの歴史の深さや英語の美しさに憧れての留学でしたが、少しずつ日常会話に困らなくなった頃、もっと専門的な勉強がしたくなり、一大決心をして24歳から大学の経営学部に入学することにしました。

イギリスの大学は、一般教養課程がなく、1年生から専門の授業が始まるため、入学してすぐに授業についていく厳しさを痛感しました。周りの学生と英語力に決定的な差があったため、空いている時間は、大学併設の語学センターに通いながら必死で勉強を続けました。一つの力がつく度に新たな目標ができるのは不思議なもので、卒業をする頃には、MBAを取得するという新たな夢が広がり、そのまま大学院へ進学しました。

欧米のMBAは、企業経営の実務家を養成する学部で、ファイナンス、経済学、会計学、マーケティング、ヒューマンリソースマネジメント、企業戦略などを総合的に勉強し、私の大学院では、卒業に2万2千語の修士論文の提出が義務付けられていました。

毎日の膨大な量の課題やプレゼンテーションの連続で、円形脱毛や味覚障害になり、あの頃の私の体は悲鳴を上げていたと思いますが、それでも毎日、寝る間も惜しんで頑張り続けた結果として、幸運にもMBA Student of the year (最優秀学生賞) に選ばれた時には、まるで夢のようでした。

表彰式には、当時77歳の祖母が、「とても名誉な事だから」と、一人でロンドンまで来てくれ、涙を流して喜んで

くれたことは、私の人生の大きな宝物です。

MBA取得後は、ロンドンの金融街シティでリクルートメントに就職し、コンサルタントとして働きました。イギリスには約600社の日本企業が進出していますが、その殆どの採用に関わることで、人事担当者や経営者の理念や考え

方を知る事ができました。またサブプライム問題に始まった一連の金融危機の中、マクロな経済状況に左右される企業の動向を間近で感じる事ができたことも貴重な経験でした。

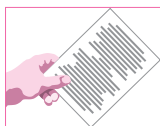
去年の4月に9年間のロンドン生活を終え帰国し、家業の会社経営をしながら、新規事業の企画をしている最中に、母校の沖縄キリスト教短期大学から非常勤講師の依頼を受け、とても光栄に思うとともに責任の大きさを感じています。

後輩でもある学生達に、私がイギリスで学んだ「目標を見つけ努力を続けていれば、必ず報われる日が来る」という信念と、海外のリクルートで培った経験を授業に活かしながら、学生達に負けないように私も日々努力して行きたいと思っています。

※ ※ ※ 略 歴 ※ ※ ※

1998.3	沖縄キリスト教短期大学卒業。
2000.4~2005.6	渡英し英語を学ぶ。専門学校を経て、ウェストミンスター大学に入学。経営学を専攻、学士取得。
2007.6	ロンドンサウスバンク大学院 経営学修士取得、Student of the Yearに選ばれる。
2007.7~2008.3	JACリクルートメントロンドン勤務。企業の採用を手伝うコンサルタントとして働く。
2002.4~現在	鍾乳洞古酒蔵運営、カフェレストラン長楽、田芋工房きん田などを経営するインターリンク沖縄の取締役就任。
2009.10~現在	沖縄キリスト教短期大学、琉球大学にて非常勤講師を勤める。





退職教員メッセージ



英語コミュニケーション学科教授

仲地 弘善

退職に際して

6年間の短い在職期間でしたが、風光明媚な四方の風景が見渡せる丘の上の小奇麗なキャンパスで教育・研究に関わらせてもらったことに対し、関係者の皆様に心からお礼を申し上げますとともに、感謝の念でいっぱいです。多少、心残りはありますが、潮の引き時と心得て、「老兵はただ静かに去るのみ」をモットーに本学院に「さよなら」を告げます。去るにあたってぜひ一筆をとる要請がありましたので、「徒然なるままに」心に浮かぶことを、2つ3つ書き留めておきます。

まず、大学における教育・研究に関することです。大学教員にとって、研究している分野が授業科目に活かされるのは、幸いであり、生きがいを感じるものでありますが、そういう幸運はめったに來ないのが現実です。特に最近では、大学改革の影響を受けて専門科目に関しては基礎的なことに止め、大学院でそれを深めさせることになってきているので、学部教育の段階では幅広い教養教育的な専門科目の講義内容が要求されているのです。それに加えて、本学ではリベラル・アーツ・カレッジ的なカリキュラム編成となっているため学部教育全体が教養教育的色彩の強いカリキュラムになっています。しかし、そういう状況にあっても専門性を持ち、かつ研究分野を鮮明にしておくことが大学教育では極めて重要なことです。一般的・総合的な事象を説明するにあたって、特定の専門的立場からの具体的な論証が、読者あるいは聴取者にとって分かりやすいからです。

また、大学においては、教員は学生たちとともに学び、かつ研究する姿勢が大切であるように思われます。そのようなことを勘案して、本学では集中して学ぶ領域設定がなされていて、ある程度の専門性が身につくカリキュラム編成がなされています。しかし、第3者からみた場合には、今ひとつ領域設定の内容がはっきりしないとの苦情が聞こえています。3年次からの「アカデミック・アドバイザー制」が設定された背景です。集中して学ぶ3つの領域（1. インターナショナル・サービス 2. インターナショナル・ビジネス 3. 異文化交流）に加え、卒業論文や就職を意識した演習やゼミが行えるようにするグループの形成です。2010年度実施予定の外部評価を機に、カリキュラムの自己点検・評価が実施され、改革・改善に向けて取り組んでいる最中ですが、本学の特色である「実践的な英語力の養成」、「異文化交流の実践」、及び「幅広い教養教育の構築」など、本学の建学理念に沿った「日本型リベラル・アーツ・カレッジ」の再構築を目指しつつも、学生や社会の要請に応えうる人材育成に繋がるカリキュラムの改革・改善を断行してほしいものです。

大学評価が普及する中、“Plan, Do, See, and Action”というフレーズが、改革・改善のサイクルとしてクローズアップされています。本学院4年制大学にそのフレーズを適用してみると、創設時の学部構想が“Plan”の段階であり、2004年4月から現在までの6年間は“Do”の段階に相当します。そして昨年からは着手した自己点検・評価委員会を中心とする評価活動が、まさしく“See”の段階であると言えます。改革・改善をするためには、まずもって現状の掌握と分析が基礎となり、次いで各課、または各委員会ごとの課題抽出及び整理が重要となります。これらの基礎データを踏まえ、さらに大学の中・長期計画を視野に入れながら、自己点検・評価報告書の中に改革・改善策を提示していくことが求められています。つまり、“Action”の段階とは、“Plan”がどのように実施されてきたか、あるいは実施の過程で浮かび上がった課題にどのように対処してきたかについての自己点検・評価、いわゆる“See”を実施する過程で、中・長期的な展望を踏まえながら、“Plan”に軌道修正を加え、これから7年間の“Action Plan”にしていくサイクルの一巡だと理解されます。この“Action Plan”の構築に向けて、本学の教職員が一丸になって取り組む姿を思い描きつつ、「心にうつるよしなしこと」を書き留め、退職の辞とさせていただきます。



2009年度 人事 (2009年4月1日～2010年3月31日)



学科長等任命 (任期：2009年4月1日～2011年3月31日)

英語コミュニケーション学科長
伊佐 雅子 (英語コミュニケーション学科教授)
英語科長 仲座栄利子 (英語科准教授)
保育科長 吉村 壮明 (保育科准教授)
総合教育系主任 青野 和彦 (総合教育系准教授)

<沖縄キリスト教短期大学>

●採用 (4月1日付け)
前里 光盛 英語科特任教授
赤嶺 優子 保育科准教授
●昇任 (10月26日付け)
上原 明子 総合教育系教授

<沖縄キリスト教平和研究所>

所長 金 永秀
(英語コミュニケーション学科教授・宗教部長)
(任期：2009年4月1日～2010年3月31日)

<事務職員>

●採用
4月1日付け
内間 貴士 入試課書記
9月1日付け
東江 幹夫 総務課主任
●退職
3月31日付け
与儀 勝彦 参与
●異動
9月1日付け
仲間 末美 教務課長 (昇任 教務課主任・課長代行)
平良みどり 総務課主任 (昇任 総務課書記)

<沖縄キリスト教学院大学>

●昇任 (4月1日付け)
金 永秀 教授
●退職 (9月30日付け)
野崎 茂 教授
●退職 (3月31日付け)
仲地 弘善 教授

寄付感謝報告

*寄附へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。
寄付指定 (2009年1月1日～12月31日まで)
個人 (38件/¥6,722,816) 団体 (42件/¥36,143,752) 合計 (80件/¥42,866,568)

四年制大学			
宗教団体	2		10,000
教職員	1		15,000
合計	3		25,000

施設設備資金			
父 母	1		10,000
同窓/在学生	2		630,110
団 体	3		120,000
宗 教	1		3,000
宗教団体	4		363,000
学校関係者	1		2,706
教 職 員	4		136,000
一 般	1		100,000
同 窓 会	1		650,000
後 援 会	1		5,500,000
合 計	19		7,514,816

沖縄キリスト教平和研究所			
宗教団体	2		14,012,252
合 計	2		14,012,252

奨学金			
同窓/在学生	1		85,000
企 業	9		450,000
団 体	1		100,000
宗教団体	4		463,500
学校関係者	1		4,000,000
教 職 員	6		1,340,000
同 窓 会	1		550,000
後 援 会	1		3,010,000
合 計	24		9,998,500

英語弁論大会			
宗教団体	1		100,000
合 計	1		100,000

学生会活動援助費			
同 窓 会	1		300,000
後 援 会	1		200,000
合 計	2		500,000

50周年記念			
教 職 員	1		3,000
後 援 会	1		10,000,000
合 計	2		10,003,000

新校舎建設			
父 母	1		30,000
同窓/在学生	3		63,000
企 業	3		90,000
宗 教	1		10,000
宗教団体	3		45,000
学校関係者	2		50,000
教 職 員	1		30,000
一 般	9		95,000
合 計	23		413,000

その他			
団 体	1		150,000
宗教団体	2		30,000
教 職 員	1		120,000
合 計	4		300,000



沖縄キリスト教学院 2010年度 前期公開講座募集要項

講座名(講師名)	開設予定日/時間	対象(定員)
やってみよう! 海外ボランティア 新垣 誠 (本大学准教授)	4/15 (木)~5/27 (木) 5回 19:00~20:30	ボランティアに興味がある方 (11名以上)
食べることから始めるLOHAS入門 ~その調理方法について~ 張本 文昭 (本短期大学准教授) 兼島 育子 (エコ・クッキングナビゲーター) 伊藤 芳子 (LIVING LIFE MARKETPLACE主宰)	4/16 (金)~5/21 (金) 5回 18:00~19:30	家庭料理にLOHASの視点を取り入れたい方 (20名)
宮良長包の生涯と音楽 大山 伸子 (本短期大学教授) 泉 恵得 (琉球大学音楽科教授)	4/14 (水)~7/7 (水) 10回 19:00~20:30	中学生~一般社会人 (30名)
ハングル 金 永秀 (本大学教授)	4/12 (月)~6/21 (月) 10回 19:00~20:30	ハングルがある程度読め、今までに学習したことのある方 (11名以上)
教会音楽合唱講座 神谷 智子 (本短期大学非常勤講師)	4/16 (金)~6/18 (金) 10回 19:00~20:30	一般社会人、学生 (15名)
心の健康管理 ~メンタルヘルスケア~ (医療カウンセリング入門) 二神 一人 (本学沖縄キリスト教平和研究所客員研究員・嬉野が丘サマリヤ人病院医療倫理カウンセラー)	4/16 (金)~6/18 (金) 10回 19:00~20:30	一般社会人、学生、医療関係者 (40名)
小学校・児童英語指導者養成講座 (初級コース) -Communicative Childcare Englishの基礎- 児童英語発達段階に沿った指導の展開 山里 米子 (NPO法人沖縄児童英語研究会理事長)	4/13 (火)~6/22 (火) 10回 19:00~20:30	一般社会人、大学生、保育士、幼稚園教諭、小中学校教諭、児童英語講師 (20名)
社会人としてのコミュニケーション基礎スキル 豊見永 きおみ (生きるちからコミュニケーション塾)	4/14 (水)~6/30 (水) 10回 19:00~20:30	一般社会人、学生 (11名以上)

1. 申込方法: 1) お電話でお申込みください。 電話番号 098-946-1240 (総務課)
2) FAXでお申込みの方は、HP掲載の申込書をご利用になり、氏名等を記入し、下記宛に送信してください。 FAX: 098-946-1241
※E-mailでお申込の方は、HP掲載の申込書をダウンロード後、氏名等を記入し、右宛に添付して送信して下さい。
E-mail koukaiko-za@ocjc.ac.jp
◎定員に達し次第締め切らせていただきます。
2. 受付期間: 3/8(月)~3/26(金)まで ※時間 09:00~17:00 (土日除く)
3. 受講費用: <10回>一般6,200円/割引3,200円

<5回>一般3,200円/割引1,700円

◎本学関係者・在学・卒業生、西原町在住者・勤務者、学生の方は割引あり。
◎一旦納入された受講料は払い戻しできません。

4. 納入先: 各講座開講当日に総務課窓口で納入してください。(18:00~18:50)
5. 開講条件: 受講者の人数が少ないクラスは閉講することがあります。
この場合受講料は、お返しいたします。
6. 日程: 諸事情により、講座日程が変更になる場合があります。
講座が開始されましたら、担当講師にご確認下さい。
7. 詳細: 詳細は、本学のホームページをご覧ください。 <http://www.ocjc.ac.jp>

2008年度 決算報告 2008年4月1日から2009年3月31日まで

資金収支計算書

(単位: 円)

消費支出の部		消費収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人件費支出	620,135,122	学生納付金収入	819,024,700
教育研究経費支出	239,619,717	手数料収入	20,097,100
管理経費支出	58,360,348	寄付金収入	33,734,371
借入金等利息支出	1,041,762	補助金収入	182,124,646
施設関係支出	467,394,370	資産運用収入	10,147,341
設備関係支出	123,890,844	事業収入	5,084,632
資産運用支出	35,506,030	雑収入	56,358,965
その他の支出	70,376,370	借入金等収入	360,000,000
予備費		前受金収入	391,450,370
資金支出調整勘定	△40,624,122	その他の収入	260,303,656
次年度繰越支払資金	1,108,977,884	資金収入調整勘定	△427,467,726
支出の部合計	2,684,678,325	前年度繰越支払資金	973,820,270
		収入の部合計	2,684,678,325

貸借対照表

(単位: 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,349,059,717	固定負債	455,944,854
有形固定資産	3,072,510,767	流動負債	479,802,594
土地	938,626,369	負債の部合計	935,747,448
建物	1,368,561,598	第1号 基本金	3,641,411,977
その他の有形固定資産	765,322,800	第3号 基本金	30,000,000
その他の固定資産	276,548,950	第4号 基本金	67,000,000
流動資産	1,144,152,093	基本金の部合計	3,738,411,977
現金預金	1,108,977,884	翌年度繰越消費支出超過額	△180,947,615
その他の流動資産	35,174,209	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,493,211,810
資産の部合計	4,493,211,810		

消費収支計算書

(単位: 円)

消費支出の部		消費収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人件費	627,430,035	学生納付金	819,024,700
教育研究経費	304,224,372	手数料	20,097,100
管理経費	64,411,820	寄付金	34,186,452
借入金等利息	1,041,762	補助金	182,124,646
資産処分差額	2,615,096	資産運用収入	10,147,341
予備費		事業収入	5,084,632
		雑収入	56,358,965
消費支出の部合計	999,723,085	帰属収入合計	1,127,023,836
当年度消費支出超過額	36,092,422	基本金組入額	△163,393,173
前年度繰越消費支出超過額	144,855,193		
翌年度繰越消費支出超過額	180,947,615	消費収入の部合計	963,630,663

2008年度決算について報告いたします。

計算書類は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されており、資金収支計算書は、当該会計年度の研究及びその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支内容及び均衡の状態を示し、学校法人の経営状態を明らかにしたものです。

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。



卒業後、県費の派遣国外留学生として学ぶ者がいます。他大学に編入してそこで特待奨学生となる者がいます。学内ではゴスペルを歌いテレビで紹介されるグループがあったりします。華やかな部分に注目は集まりますが、すべては才能を活かした地道な努力の結果です。努力ばかりで、才能が無ければ花咲くことはありません。でも、そんなときこそ頑張った自分を褒めたいのです。
今回の学報も多くのの方々のご協力のもと完成しました。深く感謝申し上げます。